

富山大学 学報

第233号

目	次
学 長 告 辞…………… 2	短期大学部卒業式挙行…………… 15
昭和57年度富山大学卒業式 学長告辞…………… 2	昭和57年度富山大学大学院並びに専攻科
関 係 法 令…………… 3	修了式挙行…………… 16
学 内 規 則…………… 4	人 事 異 動…………… 18
富山大学文理学部関係規則等を廃止する規則	学 内 諸 報…………… 22
の制定…………… 4	工学部の地鎮祭が行われる…………… 22
富山大学大学院工学研究科規則の一部改正…………… 5	学長メッセージ…………… 22
富山大学における事務の委任に関する規則の	工学部校舎新営工事用車両の交通について…………… 23
一部改正…………… 5	人文学部長の改選…………… 23
諸 会 議…………… 5	海外渡航者…………… 24
学 事…………… 7	退職者を囲む懇談会開催…………… 24
学位取得者…………… 7	紺綬褒章の伝達…………… 24
昭和58年度文部省在外研究員派遣予定者の決定… 7	学内レクリエーション〈囲碁大会, 将棋大会〉… 25
昭和58年度科学研究費補助金(海外学術調査)	保健管理センターだより
交付内定者…………… 8	〈精神療法～A子の場合～〉…………… 25
外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ… 8	職 員 消 息…………… 26
外国人研究者の取扱いについて…………… 12	主 要 行 事…………… 28
昭和58年度富山大学並びに富山大学経営短期	資 料…………… 31
大学部入学者選抜状況…………… 14	昭和57年度卒業(修了)者数…………… 31
昭和57年度富山大学並びに富山大学経営	昭和58年度授業日程表…………… 32

学 長 告 辞

昭和57年度富山大学卒業式 学長告辞

本日、ここに卒業証書を授与された方々は総勢1,091名でしたが、私はこれらの諸君に対して、富山大学の名において、心からおめでとうと申し上げます。

これから諸君は思い思いの道に向かって社会へ旅立たれることになるわけですが、折しも社会情勢は仲々に厳しいものがあります。私は本学の卒業式にこれで4回臨むわけですが、社会情勢の厳しさはあらゆる面で年を追って加速されてきているように思います。諸君の一人一人もそのことは十分御承知の上で覚悟を新たにして本日の門出の日を待っておられたことと思います。

私はこの卒業式に当たって、諸君に何かはなむけの言葉を送りたいと思いますが、本日は、これからの混沌とした情報化社会に諸君が生き抜くためにはどのように対処したらよいのかということについて、諸君と共に考えてみたいと思います。

さて、現在の社会をみますと、活字、絵や写真、そして音を通じて目や耳から政治、経済、社会のあらゆる情報はもちろん、諸君の専門とする学術研究の面でも多種多様な情報が自分は何もしないでいてもどんどんと飛び込んできます。この傾向は今後共更に増大することでしょう。最近一部の若者達が、一日中イヤホンをつけて、ボリュームを一杯にあげて音楽を聞いている姿をよく見受けませんが、一説によるとあれはあらゆる外来の情報を拒否し、また自らも考えることを止めて、自分を社会の煩わしさから隔絶するための手段であるというのです。それが真実かどうか知りませんが、世の中はここまで来てしまったのです。

このような世の中に生きていかねばならない諸君は下手をするとその情報に振り回されてしまいます。今から半世紀も前の機械化時代の幕明け期には、あのチャップリンの風刺映画にありましたように、人々は機械に振り回されていました。現代はそのハードな機械にとって代わってソフトな情報に人間が振り回される時代になってきたのです。そのような時、氾濫する情

報に振り回されないためには、それらの多様でしかも多量の情報から必要な情報を適確に選び出すしかないと思います。

ここで一つ、生物が生きていく上で自身がそなえている情報をいかにうまく処理しているかということについて考えてみましょう。御存知のように生物は一つ一つの細胞の核の中にデオキシリボ核酸(DNA)という物質をもっていて、この物質には生物の生命活動に必要なあらゆる情報がしまい込まれているのです。いろいろの生物細胞についてDNA含量を調べてみるとバクテリアを1とした場合、酵母やカビが10、原生動物が100でヒトのような高等動物になると1,000といった割合になっています。このことはヒトの細胞はバクテリアの細胞に比べて1,000倍の情報量をそなえていることになります。いま、地球上にバクテリアのような形の生命が誕生して以来、30億年といわれる長い年月をかけてヒトが生まれてきたと考えますと、その間にバクテリアのDNAの上に必要な情報が少しずつ積み重ねられて、現在のヒトのDNAのような複雑なものになってきたのだということができましよう。

ヒトの細胞にはこのように多数の情報がおさめられています。その情報量は受精卵にはじまって生まれてから死ぬまで、一細胞当たりの量に変わりありません。すなわち、細胞内におさめられた数え切れない程の情報は、ヒトの一生を通じて全部が全部常に発現されているわけではないのです。DNAという倉庫におさまっている多数の情報は、成長の段階に応じてその扉が開いたり閉じたりすることによって必要なだけの情報が選り出されるのであって、他の大部分はすべてお倉入りしているわけです。これはまさに多量のデータを収納しているコンピューターからあるプログラムに従って必要なデータだけが引き出されたり、しまい込まれたりするのと全く同じなのです。いやむしろコンピューターは生物の仕組みをモデルにして組み立てられたといった方が正確でしょう。

このようにみえてくると、ヒトの体の仕組みとコンピューターの仕組みとは基本的には同じように見えますが、両者の大きな違いはヒトの場合には思考という素晴らしいメカニズムがあることです。もっともコンピューターでもすでに人間の思考過程の一部を真似することができるようになっており、碁を打ったり、チェスをしたりする機械もあるそうですが、残念ながら新手を考え出すといったような独創性をそなえたものになると、コンピューターの遠く及ぶ所ではなくなってしまいます。諸君がこれからの情報化社会、コンピューター社会でそれに振り回されずにそれを使いこなしていくためには、創造的思考という最も人間らしい素晴らしい機能を発揮するしかないのです。

さて、科学の進歩というのは今申し上げたような情報処理過程の繰り返しによって行われているわけでして、基本的にはできるだけ多くの情報を積み重ねていくこと、そしてその中から必要な情報を適確に選び出して、それに基づいて新たな情報を創り出すということだと思います。こうみえてくると、現在のように情報量が多いということは社会がそれだけ進化した高度化したという証拠であり、そのあり余る情報を積極的に上手に使いこなした者が勝利するということにもなるわけです。

ところでどのような発明や発見も突然生まれるものではなく、情報の積み重ねの上に成り立っているものですが、その中で特に偉大な発明や発見は、全く新しい発想に基づいて既成の情報を根本的に見直す時に生まれるものだと思います。これこそが真の独創性といわれるものでしょう。

ここでいうような全く新しい発想なるものは、恐らく天才と呼ばれる方々にしか望めないのかも知れません。しかし、私どもが日常の仕事をしている時に、何か壁に突き当たったような場合、それまでの考え方を変えて別の考え方でアプローチするとうまくいくことが

あります。仕事を進めていく上でこのような対処の仕方が日常自由にできるようになった時、その人は独創ということに一步も二歩も近づくことができたといえるのではないのでしょうか。

諸君はそこで、独創などという高級なことは自分にはできないとはじめから諦めてしまっはいけません。ただ今申し上げたように、物事を一つの角度からだけ見るのではなく、色々な角度から見直すということ、すなわち発想の自由な転換は頭脳の良し悪しにかかっているわけではなく、頭脳の使い方にかかっている問題なのです。ですから訓練の仕方によってはだれでもできるはずなのです。最近小中学校の児童でも、いま流行のテレビゲームのプログラムを自分で考案して、それをソフト業者に売ってアルバイトをしているというではありませんか。私の申し上げたいのは、独創というのはその価値に大小の別はあるにしてもやる気さえあればだれにでもできるということなのです。諸君は今後とも、自らの頭脳の使い方に工夫を凝らして下さい。

本日の卒業式に当たって最後に重ねて申し上げます。諸君はこの情報化社会に出ていくに当たって、情報の波に溺れることなくそれを積極的に活用し、そして何をするにも既成概念にとらわれず、できるだけ多角的に物事を考えて下さい。そうすることによって、はじめて何か新しいものを手にすることができるのだということに胆を銘じていただきたい。要するに他人が考えられないようなことを考え、他人がやらないようなことをやって下さい。そのような自由で思い切った多角的思考ができるのは、諸君のような若者にだけそなわった特権であるときえいえると思います。どうかその積もりで御自分の頭脳の日ごろの訓練を心掛けて下さい。

昭和58年3月25日

富山大学長 柳 田 友 道

関 係 法 令

法 律

- 国立学校設置法の一部を改正する法律(14) 3・31
(号外)

(官報掲
載月日)

政 令

- 国立大学の大学院に置く研究科の名称及び課程を定める政令の一部を改正する政

令(40)	3・29	○人事院規則（災害を受けた職員の福祉施設）の一部を改正する規則（人事院16-3）	3・31
○国立大学の大学院に置く研究科の名称及び課程を定める政令の一部を改正する政令(66)	4・1 (号外)	○人事院規則（補償及び福祉施設の実施）の一部を改正する規則（人事院16-4）	3・31
省令		○人事院規則（俸給の調整額）の一部を改正する規則（人事院9-6）	4・1
○国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令（文部14）	4・1	○人事院規則（俸給の特別調整額）の一部を改正する規則（人事院9-17）	4・1
○学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部15）	4・1	○人事院規則（特地勤務手当等）の一部を改正する規則（人事院9-55）	4・1
規 則		告 示	
○人事院規則（管理職員等の範囲）の一部を改正する規則（人事院17-0）	3・10	○指定技能教育施設を廃止した件（文部28）	3・16
○人事院規則（現行の法律、命令及び規則の廃止）の一部を改正する規則（人事院1-4）	3・31	○短期大学の位置変更に関する件（文部29）	3・16
○人事院規則（宿日直勤務）の一部を改正する規則（人事院15-9）	3・31	○昭和58年度大学入学資格検定の施行期日等を告示する件（文部30）	3・18
○人事院規則（職員の災害補償）の一部を改正する規則（人事院16-0）	3・31	○大学、短期大学部の位置を変更する件（文部35）	3・28
		○短期大学の位置変更に関する件(文部41)	4・1

学 内 規 則

富山大学文理学部関係規則等を廃止する規則の制定

富山大学文理学部関係規則等を廃止する規則を次のとおり制定する。

昭和58年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学文理学部関係規則等を廃止する規則

第1条 富山大学文理学部規則（昭和26年9月7日制定）は、廃止する。

第2条 富山大学文理学部教授会規程（昭和27年1月16日制定）は、廃止する。

第3条 富山大学文理学部長候補者の選挙に関する細則（昭和28年8月3日制定）は、廃止する。

第4条 富山大学文理学部選出の評議員に関する申し合わせ事項（昭和52年5月2日制定）は、廃止する。

▶ 富山大学文理学部関係規則等を廃止する規則の制定理由

本学文理学部は、国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和52年5月2日法律第29号）附則第4項の規定に基

第5条 富山大学文理学部等から選出又は推薦される各委員会委員の特例に関する申し合わせ事項（昭和52年7月1日制定）は、廃止する。

第6条 富山大学文理学部長選考の特例に関する申し合わせ事項（昭和53年2月17日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、昭和58年4月1日から施行する。

つき現在まで存続されてきたが、本年3月31日付けをもって在学する者がいなくなるので文理学部単独の規則等を廃止するため。

富山大学大学院工学研究科規則の一部改正

富山大学大学院工学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和58年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学大学院工学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院工学研究科規則（昭和42年5月19日制定）の一部を次のように改正する。

別表金属工学専攻の項中

「

鑄造学特論	4
鉄鋼材料学特論	2

」を「

鑄造学特論	2
鉄鋼材料学特論	4

」に改める。

附 則

1. この規則は、昭和58年4月1日から施行する。
2. 昭和57年度以前の入学生については、なお従前の例による。

▶富山大学大学院工学研究科規則の改正理由

金属工学専攻の教育内容の充実を図るため。

富山大学における事務の委任に関する規則の一部改正

富山大学における事務の委任に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和58年3月18日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学における事務の委任に関する規則の一部を改正する規則

富山大学における事務の委任に関する規則（昭和55年9月27日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1号の次に次の1号を加える。

（1の2）科学研究費補助金による購入物品の寄附承認に関する事務

附 則

この規則は、昭和58年4月1日から施行する。

▶富山大学における事務の委任に関する規則の改正理由

科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号）に定める購入物品に係る寄附承認事務を学部長等に委任することにより事務の簡素化を図るため。

諸 会 議

第1回学長候補適任者選定委員会（3月3日）

持ち回り放射性同位元素委員会（3月4日）

（審議事項）

第2回学長選考管理委員会（3月3日）

(1)放射線取扱主任者及び同代理者の指名について

発明委員会（3月7日）**（審議事項）**

- (1)委員長の互選について
- (2)任意譲渡による承継について

昭和57年度第21回学寮補導委員会（3月8日）**（報告事項）**

- (1)2月18日の評議会について
- (2)寮生との話し合いについて

（審議事項）

- (1)話し合いのルールについて
- (2)予備折衝について
- (3)学寮の諸問題について

昭和57年度第2回富山大学施設整備委員会（3月9日）**（審議事項）**

- (1)西田地方宿舎敷地等の所管換について
- (2)工学部運動場敷地の一部売払いについて

計算機センター運営委員会（3月10日）**（報告事項）**

- (1)業務報告

（審議事項）

- (1)センターの運営と将来計画について

昭和57年度第6回補導協議会（3月10日）**（報告事項）**

- (1)日本育英会奨学生の推薦について

（審議事項）

- (1)昭和58年度入学生行事日程について
- (2)昭和57年度厚生補導担当教官研究会について

昭和57年度第6回公開講座委員会（3月10日）**（審議事項）**

- (1)昭和58年度公開講座実施計画について

昭和57年度第8回大学院委員会（3月12日）**（審議事項）**

- (1)富山大学大学院工学研究科規則の一部改正案について
- (2)昭和57年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について

昭和57年度第12回評議会（3月12日）**（報告事項）**

- (1)昭和57年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について
- (2)学生の動向について

（審議事項）

- (1)富山大学大学院工学研究科規則の一部改正案について
- (2)昭和58年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
- (3)昭和57年度卒業者及び修了者の認定について
- (4)昭和60年度学力検査実施教科・科目について
- (5)転学部について
- (6)文理学部関係規則等の廃止について
- (7)中国遼寧大学との交流について

教務委員会及び補導協議会の合同委員会（3月18日）**（審議事項）**

- (1)富山大学学生部長選考基準に基づく次期学生部長候補適任者の選定について

昭和57年度第4回教務委員会（3月18日）**（審議事項）**

- (1)学則について（継続審議）

昭和57年度第22回学寮補導委員会（3月22日）**（報告事項）**

- (1)3月10日の予備折衝について

（審議事項）

- (1)学寮の諸問題について

昭和57年度第7回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（3月22日）**（審議事項）**

- (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和56年度以降の調査研究事項について

昭和57年度第2回低温液化室運営委員会（3月23日）**（審議事項）**

- (1)室長の推薦について
- (2)委員長の互選について

昭和57年度第8回事務協議会（3月23日）**（審議事項）**

- (1)当面の諸問題について

教務委員会及び補導協議会の合同委員会（3月26日）
（審議事項）

(1) 富山大学学生部長選考基準に基づく次期学生部長候補適任者の選定について

放射性同位元素委員会（3月28日）
（審議事項）

(1) 委員長の互選について

第2回学長候補適任者選定委員会（3月29日）

学 事

学 位 取 得 者

取得者 工学部 講師 竹越栄俊
取得学位 工学博士（東京工業大学）
取得年月日 昭和58年2月28日
学位論文名 低温断熱を対象とした粉体の熱伝導に関する研究

取得者 工学部 文部技官 山田 茂
取得学位 工学博士（大阪大学）
取得年月日 昭和57年12月22日
学位論文名 アルミニウム合金切削における工具摩耗に関する研究

取得者 教育学部 教授 加藤壽美子
取得学位 工学博士（京都大学）
取得年月日 昭和58年3月23日
学位論文名 糊化過程における米飯並びにデンプン粒の構造と力学的性質に関する研究

取得者 工学部 助手 山口信吉
取得学位 農学博士（筑波大学）
取得年月日 昭和58年3月25日
学位論文名 乾燥による米粒の胴割れ発生機構に関する基礎的研究

昭和58年度 文部省在外研究員派遣予定者の決定

種 類	部 局	官 職	氏 名	主たる滞在地名及び 当該滞在地の属する国名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
長期(甲)	理学部	助教授	鳴 橋 直 弘	エジンバラ ロンドン (連合王国)	アジア産キイチゴ属 (Rubus) の分類 学的研究	月 10
	教養部	〃	小 林 武 彦	メンロ・パーク (アメリカ合衆国) ローマ (イタリア)	テフロクロノロジーによる北米大陸・ イタリアなどの火山研究	10
短 期	人文学部	教 授	長 沼 忠 兵 衛	ロンドン (連合王国)	キリスト教の社会史的研究	2
	工学部	助教授	笹 倉 壽 介	ミネアポリス (アメリカ合衆国)	液体膜による分離濃縮法の研究と調査	2

昭和58年度 科学研究費補助金（海外学術調査）交付内定者

研究代表者			研究課題	調査国	交付内定額 (千円)
所属	官職	氏名			
人文学部	教授	和崎洋一	スワヒリ語圏における多言語使用と「スワヒリ化」に関する比較調査（第二次）	タンザニア国、ケニア国、ザイール国、ルワンダ国、ブルンディ国	11,000

外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年、外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが、参考までに昭和57年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお、これらの募集通知については、毎年一定しているものでなく、その年度によって若干の変更あるい

は募集しないものもあり、またこの外にも各種財団等から募集がある場合もありますので、この点お含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部局の庶務（総務）係にお問い合わせ下さい。

関係国	名称	募集人員	専攻分野	応募資格 (共通事項) ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力を有する者 ・心身ともに健全な者	待遇	関係機関 (募集通知時期)
アイルランド	アイルランド政府奨学金留学生	1名	制限なし	・大学卒業者	・期間 9月 ・奨学金 月額175ポンド ・授業料	(財)日本国際教育協会留学情報センター (2月)
アジア諸国 (インド、ネパール、パキスタン、スリランカ、インドネシア、大韓民国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、モントゴル、エジプト、中東、トルマ、香港)	アジア諸国等派遣留学生	9名程度	留学対象国の言語、歴史、文化又は社会の分野	・大学院博士課程若しくは修士課程に在学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 2年 ・奨学金 月額100,000円 ・一時金 年額30,000円 ・往復航空運賃	文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課 (3月)
アメリカ合衆国	N I H 奨励研究員	6名	医学、生物学、生化学、生理学、歯学、薬学、獣医学等	・博士号所有者 ・35歳以下優先	・期間 原則として1年 ・滞在費 年額16,000~20,000ドル ・往復旅費	日本学術会議 (1月)
	大学院留学プログラム フルブライ		人文科学、社会科学、(アメリカ研究、日本研究、太平洋地域研究、社会変動及び社会政策、教育の国際化の領域が望ましい) 自然科学、応用科学 (大学院学生に限る)	・大学卒業者(博士号を有する者を除く) ・34歳以下の者優先 ・将来日本の大学で教職又は研究職を志望する者、左記の研究領域の専門職にある者及び同領域の研究に従事している者	・期間 1学年間 ・往復旅費 ・生活費 ・授業料 ・書籍代等	日米教育委員会 (4月)

ト 奨 学 生	研 究 員 プ ロ グ ラ ム	F D F (若手大 学 教員養 成)		同 上	・ 4年制大学の専任の助教授、講師又は助手 ・ 40歳以下の者優先 ・ 3か月以上継続した渡米経験のない者優先	・ 期間 1学年間 ・ 往復旅費 ・ 生活費 ・ 書籍代等	
		上級研究員		同 上	・ 4年制大学の専任の教授又は助教授 ・ 55歳以下の者優先 ・ 米国人との共同研究を特に優先	・ 期間 3か月～1学年間 ・ 往復旅費 ・ 生活費 ・ 書籍代等	
		招へい講師プログラム		同 上	・ 4年制大学の専任の教授又は助教授 ・ 55歳以下の者優先 ・ 3か月以上継続した渡米経験を有する者	・ 期間 1学年間 ・ 往復旅費 ・ 生活費 ・ 書籍代等	
イスラエル	イスラエル政府奨学金留学生	若干名	制限なし	・ 大学卒業者（含む見込者） ・ 35歳未満の者	・ 期間 9月 ・ 奨学金 月額 4,500イスラエルシエケル ・ 授業料免除	(財)日本国際教育協会留学情報センター (11月)	
イタリア	イタリア政府奨学金留学生	17名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・ 大学卒業者	・ 期間 1学年又は2学年間 ・ 奨学金 月額 330,000リラ ・ 往復航空賃	同 上 (2月)	
インド	インド政府奨学金留学生	6名	同 上	・ 大学卒業者（含む見込者）	・ 期間 2年 ・ 滞在費 月額 500～600ルピー ・ 書籍代 年額 400ルピー以内 ・ 授業料免除	同 上 (1月)	
オーストリア	オーストリア政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学	・ 大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 ・ 20歳以上35歳未満の者	・ 期間 9月 ・ 奨学金 月額 5,000～6,500オーストリアシリング ・ 授業料免除 ・ 渡航費一部補助	同 上 (12月)	
スイス	スイス政府奨学金留学生	2名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・ 大学卒業者 ・ 35歳未満の者	・ 期間 9月（1年間の延長が認められることもある） ・ 奨学金 月額 900～1,100スイスフラン ・ 授業料免除 ・ 帰国旅費	同 上 (10月)	
スウェーデン	スウェーデン政府奨学金留学生	1名	人文科学、社会科学、自然科学	・ 大学卒業者（含む見込者）	・ 期間 8月 ・ 奨学金 月額 2,770スウェーデンクローネ ・ 渡航費一部補助	同 上 (12月)	
タイ	タイ政府奨学金留学生	フェロースhip 6名 スカラースhip 4名	人文科学、社会科学、自然科学、美術	・ フェロースhip 大学卒業者（含む見込者） ・ スカラースhip 高校卒業者（含む見込者）で30歳以下の者	・ フェロースhip 期間 1年 給費 年額 20,000バーツ ・ スカラースhip 期間 1～6年 給費 年額 15,000バーツ	同 上 (2月)	

大韓民国	大韓民国政府奨学金留学生	4名	人文科学, 社会科学, 自然科学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 修士課程 2年 博士課程 3年 ・奨学金 月額 300,000ウォン ・着後一時金 66,000ウォン ・往復航空賃 ・図書購入費 ・国内研究旅費 ・入学金, 授業料免除 	同上 (3月)
チェコスロバキア	チェコスロバキア政府奨学金留学生	5名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 2年 ・奨学金 月額 1,400チェコクラウン 	駐日チェコスロバキア大使館 (6月)
中国	中国政府奨学金留学生	40名	現代中国語, 中国語, 中国文学, 中国歴史, 哲学, 政治経済学, 考古学, 書法, 美術史, 建築学, 薬学, 中国画, 医学, 中国医学, 中国戯曲史, 民族音楽理論, 民族器楽演奏	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として大学院に在籍する者又は大学卒業後研究教育に従事している者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年程度 ・奨学金 月額 140元 ・学費免除 	(財)日本国際教育協会留学情報センター (2月)
			同上	同上 (大学の3年次以上に在籍している者も可)	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1~2年 ・奨学金 } 同上 ・学 費 } 同上 	
デンマーク	デンマーク政府奨学金留学生	<ul style="list-style-type: none"> ・研究奨学金 5名 ・学部奨学金 2名 	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・研究奨学金 大学卒業者(含む見込者) ・学部奨学金 大学3年次以上に在学する者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8月 ・奨学金 月額 研究奨学金 3,395デンマーククローネ 学部奨学金 2,940デンマーククローネ ・旅費一部補助 	同上 (11月)
ドイツ連邦共和国	奨学金留学生	25名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術 (音楽, 美術)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和26年10月2日以降に出生の者 ・人文, 社会科学専攻原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 ・自然科学専攻 修士課程修了者 (ただし, 医・歯学専攻は学部卒業者でよい) ・音楽専攻 学部3学年在学以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年 ・給費 月額 830~940 ドイツマルク (場合によっては1,400ドイツマルク) ・家族手当 ・支度料 ・保険料 ・専門書籍代 ・往復旅費 	同上 (9月)
	奨学金特別給付計画に基づく奨学生	10名	ドイツ語, ドイツ文学	<ul style="list-style-type: none"> ・32歳未満の者 ・ドイツ語, ドイツ文学を専攻する大学院修士以上の課程の修了者で大学においてドイツ語, ドイツ文学の教育を担当し, 帰国後もとの職務に復しうる者(同大学院の在学者を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年 ・奨学金 月額 830~940 ドイツマルク (場合によっては1,400ドイツマルク) ・家族手当 ・支度料 ・保険料 ・荷物運賃 ・書籍購入費 ・往復航空運賃 	文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (9月)

	ドイツ語担当教員のドイツ派遣	15名	(ドイツ語教育に関する研修)	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立の大学、短期大学、高等専門学校 のドイツ語教育を担当する教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 約3月 ・滞在費及び研修経費 ・往復航空賃 	同上 (12月)
トルコ	トルコ政府奨学金留学生	4名	トルコ語、トルコ文学、歴史、地理、美術、農学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・40歳以下の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8月 ・奨学金 月額 20,000トルコリラ 	(財)日本国際教育協会留学情報センター (4月)
ハンガリー	ハンガリー政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 18月 ・奨学金 月額 4,000フォリント ・宿舍提供 	同上 (3月)
フィンランド	一般奨学金	2名	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 4～9月 ・奨学金 月額 1,500フィンランドマルク ・授業料免除 	同上 (11月)
	フィンランド語文化研究のための特別奨学金		フィンランド語、フィンランドの歴史、考古学、民族学、文学、政治学	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・大学院レベルの学生が優先 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 3～9月 ・奨学金 同上 	
フランス	フランス政府給費留学生		文学、人文・社会科学、自然科学、農業、医学、工学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者(含む見込者) ・第一部門(仏文学、語学、演出)30歳未満、ただし、現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり、外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は、40歳未満 ・第二部門(人文科学)及び第三部門(自然科学、農業、医学、工学)の者は40歳未満 ・音楽関係受験者は、フランス大使館文化部に年令制限規定を問合せること ・その他の芸術部門は33歳未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 9月 ・給費 月額 1,700～2,800フラン ・帰国旅費 ・授業料 	同上 (6月)
ベルギー	ベルギー政府奨学金留学生	8名程度	芸術、物理学、数学、化学、生物学、動物学、植物学、地質学、地理学、工学、医学、獣医学、薬学、農学、社会学、政治学、経済学、法学、文献学、歴史学、哲学、心理学、教育学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年 ・奨学金 月額 14,000ベルギーフラン ・帰国旅費 ・授業料 ・図書教材費 ・国内研究旅費 	同上 (3月)
メキシコ	メキシコ政府交換留学生 大学で開設中の講座を受講する留学生	30名	スペイン語、メキシコ及び中南米の歴史、地理、文学、法律、経済等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の学部又は大学院修士課程に在学中の者、あるいはこれらを卒業又は修了した者 ・30歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 約10月 ・滞在費 月額 12,000ペソ ・授業料免除 ・往復航空運賃 	同上 (11月)

	メキシコ政府交換留学生 大学等において特定のテーマによる専門的研究を行う留学生		財政、経済、文学、歴史、医学、農学等	・大学院博士課程在学中の者又は修了した者、あるいは大学卒業以上の学歴を有し、大学又は研究機関等において教育又は研究に従事している者 ・40歳未満の者		
	メキシコ政府奨学金留学生	5名	メキシコの大学で専攻が可能な分野(医学を除く)	・大学卒業者(含む見込者) ・35歳未満の者 ・単身でメキシコに渡航、滞在できる者	・期間 1学年 ・滞在費 月額 10,000ペソ ・大学登録料 ・図書費 ・傷害等保険 ・往復渡航費	同上 (2月)
ユーゴスラビア	ユーゴスラビア政府奨学金留学生		人文科学、社会科学、文化(ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野)	・大学卒業者(含む見込者) ・40歳未満の者	・期間 3～9月 ・奨学金 月額 8,700ディナール(学生寮に入る場合は7,000ディナール) ・書籍購入費 ・国内研修旅費	同上 (10月)
連合王国	ブリティッシュ・カウンシル・スカラシップ(留学生)	10数名	理学、工学、医学、人文・社会科学、芸術、教育(含む英語教育)	・大学卒業者 ・25歳から35歳までの者	・期間 9～12月 ・滞在費 月額 251ポンド ・往復旅費	ブリティッシュ・カウンシル (8月)
	国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣	8名	英語	・国立大学等において英語教育を担当する専任教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者	・期間 約2月 ・滞在費 ・往復航空賃	文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (2月)

外国人研究者の取扱いについて

このたび、次のとおり本年4月1日から実施されることになりました。
なお、手続き等については、学部等の担当係へおたずねください。

外国人研究者の取扱いについて

(昭和58年3月9日)
学長裁定

1. 趣旨

外国人の学術研究者又は学識経験者(以下「外国人研究者」という。)で、本学に来訪し、一定の期間研究に従事することを希望する者があった場合は、他に別段の定めがあるもののほか、以下に定めるところにより取り扱うものとする。

2. 資格

本学が受け入れることができる外国人研究者は、大学の教授、助教授若しくは講師又はこれらに相当すると認められる者とする。

3. 受入れの決定等

外国人研究者の受入れの決定については、学部等の長が行い、その旨を学長に報告する。

4. 受入れの期間

外国人研究者が本学において研究に従事すること

のできる期間は、1年以内とする。ただし、学部等の長が必要と認めた場合は1年以内に限りその期間を延長することができる。

5. 担当教員

外国人研究者を受け入れる場合、学部等の長は担当教員を選任するものとする。

6. 研究活動

外国人研究者は、定められた計画に従い、担当教員と協力して研究活動を行うものとする。

7. 施設等の利用

外国人研究者は、担当教員の指導のもとに研究を遂行するために必要な本学の諸施設及び諸設備を利用することができる。

8. 受入れの条件

外国人研究者の受入れに当たっては、次の条件を付するものとする。

- (1) 給与を支給しないこと。
- (2) 授業を担当させないこと。
- (3) 本学の施設において、災害その他の事故にあった場合、本学はその責を負わないこと。
- (4) 本学の諸規則を遵守すること。
- (5) 研究の成果を担当教員に無断で公表しないこと。

9. 受入れの取消し

外国人研究者の行為が本学の諸規則その他この取扱いに反した場合、本学はその受入れを取り消すことができる。

10. この取扱いは、昭和58年4月1日から実施する。

CONCERNING FOREIGN RESEARCHERS

Sanctioned by the President

March 9, 1983.

year if the dean or the director accept the necessity thereof.

1. Purpose

When a foreign researcher or other learned scholar (herein-after, the foreign researcher) applies to the University for permission to pursue research for a certain period of time at the University, the following provisions will apply, unless otherwise provided for.

2. Qualification

To be accepted by the University, the foreign researcher must be a professor, an associate or assistant professor, a lecturer or reader of a university or anyone accepted as having the same rank as the above.

3. Acceptance

The appointment of a foreign researcher will be made by the dean of a faculty or the director of an institute, center or school, and that decision reported to the President of the University.

4. Length of Stay

The period of stay shall be no longer than one year.

However, the period can be extended one more

5. Adviser

When the appointment is made, the dean or the director shall nominate an adviser for the foreign researcher.

6. Research Activity

The foreign researcher will engage in research in cooperation with the adviser according to the prearranged plan.

7. Use of Facilities

The foreign researcher can use the facilities and equipment of the University as needed for his research, by arrangement with the adviser.

8. Conditions of Acceptance

The following conditions are stipulated for the status of foreign researcher.

- (1) No grant or allowance is to be paid.
- (2) No teaching will be allowed.
- (3) The University disclaims all responsibility for any calamities, accidents or other

unpredictable events on the campus.

- (4) The foreign researcher shall observe the regulations of the University.
- (5) The foreign researcher shall not publish the results of the research undertaken, without the written consent of the adviser.

9. Cancel of Appointment

The University can cancel the status of foreign researcher if he violates the university regulations or other relevant regulations.

10. These provisions will become effective on April 1, 1983.

昭和58年度富山大学入学試験の実施状況について

昭和58年度富山大学第2次入学試験は、去る3月4日(金)学力検査、5日(土)教育学部実技検査が、学内五福地区及び工学部キャンパスの5試験場で実施された。

志願者は3,853名で、県内高等学校出身者1,768名(男子1,043名、女子725名)で全体の46%、現役は3,072名(男子2,145名、女子927名)で全体の80%であった。また、合格者の発表は、3月13日(日)午前9時五福地区

及び工学部で行われ、合格者1,197名の内訳をみると県内高等学校出身者693名(男子364名、女子329名)で全体の58%であり昨年を若干下回った。

なお、本年度から経済学部には高等学校の専門教育を主とする学科(いわゆる職業科)を昭和58年3月卒業見込みの者を対象として推薦入学制が導入された。

昭和58年度 富山大学入学者選抜状況

学部, 学科(課程)		募集人員	志願者数	受験者数	欠席者 (1部欠を含む)	合格者数
人 文	人 文	90	273	250	23	90
	語 学 文	80	213	194	9	80
	計	170	486	444	42	170
教 育	小学校教員養成	140	210	207	3	142
	中学校教員養成	50	148	142	6	50
	養護学校教員養成	20	50	48	2	20
	幼稚園教員養成	30	113	110	3	30
	計	240	521	507	14	242
経 済	経 済	120	469(16)	436(16)	33	120(6)
	経 営	120	732(18)	673(18)	59	120(8)
	経 営 法	60	432(1)	396(1)	36	60(1)
	計	300	1,633	1,505	128	300
理	数	40	74	71	3	40
	物 理	40	53	52	1	40
	化	40	60	57	3	40
	生 物	30	68	66	2	30
	地 球 科	30	89	87	2	30
	計	180	344	333	11	180

工	電 気 工	50	102	102	0	50
	工 業 化	45	118	114	4	45
	金 属 工	40	127	126	1	40
	機 械 工	50	174	169	5	50
	生 産 機 械 工	40	125	120	5	40
	化 学 工	40	152	146	6	40
	電 子 工	40	71	68	3	40
	計	305	869	845	24	305
合 計		1,195	3,853	3,634	219	1,197

(注) ()内は推薦入学志願者数・受験者数・合格者の内数を示す。

昭和58年度 経営短期大学部入学者選抜状況

	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	欠 席 者	合 格 者
一 般	100	63(12)	50(7)	13(5)	46(5)
推 薦		61	61	0	49
合 計	100	124(12)	111(7)	13(5)	95(5)

(注) ()内数字は推薦入学不合格者の再受験等を内数で示す。

昭和57年度富山大学並びに富山大学経営短期大学部卒業式挙行

昭和57年度の富山大学卒業式は、3月25日(金)午前10時30分から富山県民会館ホールで、同経営短期大学部卒業式は、3月25日(金)正午から富山ステーションホテルにおいてそれぞれ挙行されました。

今年度は、富山市公会堂の改築修理のため、会場を変更し分散して挙行されたもので、当日は晴天に恵まれて式終了後の県民会館ホール前では各クラブの後輩達による胴上げ、写真撮影などが見られ、引き続き各

学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で執り行われました。

なお、午前11時から県民会館608会議室において名誉教授との懇談会が開催され、柳田学長から最近における大学内の状況等の説明があった後、それぞれ出席の名誉教授から個々の近況などについて懇談がなされ、和やかなふんい気のうちに正午過ぎに終了しました。



昭和57年度富山大学大学院並びに専攻科修了式挙行

昭和57年度の富山大学大学院（理，工学研究科）並びに同専攻科（文学，教育，経済）修了式は，3月24日（木）午前10時から事務局大会議室において挙行されました。なお，大学院の学位記授与者は次のとおりです。

昭和57年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
数 学 (3名)	昭和56年度	河 合 均	一様分布について
	"	平 野 正 之	Riesz theory of polynomial bundles.
	"	村 本 克 志	On a weighted norm inequality for martingales.
物理学 (11名)	"	伊 藤 克 己	レーザーシュタルク法によるホスフィン分子のV ₂ 及びV ₄ バンドの高分解能分光
	"	浦 勝 彦	超イオン導電体ホイスカーの成長機構
	"	小田原 奨	極低温における金属のフェルミ面の実験的研究 —亜鉛希薄合金単結晶の帯磁率の温度依存性—
	"	木 村 明 弘	CD ₃ SH分子のマイクロ波分光（基底状態の測定と解析）
	"	中 道 修 平	シリコン中の酸素の挙動のX線回折による研究
	"	長 井 隆	CH ₃ SD分子のマイクロ波分光（ミリ波領域の測定と解析）
	"	東 浩 二	重希土類金属と鉄族金属の化合物の磁気異方性エネルギーの研究
	"	三 浦 英 治	10μm領域でのホスフィン分子のレーザーシュタルク分光
	"	宮 崎 敬 史	重希土類金属—Ni化合物の磁性と熱効果の研究
	"	安 富 優 児	超重理論—その構造と量子化について—
	"	吉 田 千 景	小林・益川角が質量で表示可能な質量行列の一般的考察
化 学 (2名)	"	春 山 健 一	イオン対生成試薬としての陽イオン界面活性剤の性質と分析化学への応用
	"	森 篤 雄	「ラネー合金によるトリチウム水の濃縮」についての研究
生物学 (3名)	"	中 山 耕 造	抗体過剰域における非沈降性の抗原抗体複合物について
	"	高 野 裕 行	ニガイチゴとミヤマニガイチゴの分類学的研究
	"	富 澤 健 一	Relationship between Germination and Phytochrome Content in spores of the Fern <u>Lygodium japonicum</u>
地 球 学 (6名)	"	米 谷 正 広	沸石の酸素同位体比
	"	竹 本 浩	関東域のやや中深発地震の発震機構
	"	伊 達 哲 弘	中部地方における中世代古地磁気

地球 科学 (6名)	昭和56年度	永井直昭	更新世後期のテフラを用いた古地磁気学的研究
	"	藤縄禎郎	飛騨外縁帯・朝日岳地域の蛇紋岩メランジ
	"	安村敏彦	復氷の実験的研究

昭和57年度富山大学大学院工学研究科(修士課程)修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
電気 工学 (5名)	昭和56年度	大井淳一	昆虫の触覚運動によるコミュニケーションシステム
	"	北上眞二	開領域問題の境界要素解析
	"	小松輝雄	磁気飽和を考慮した单相誘導電動機の特性格算定法
	"	竹多信一	防音壁のある音響空間のインパルス法解析
	"	渡部信之	蝸牛の有限要素三次元モデルとその応答
工業 化学 (4名)	"	中村信一	多環芳香族化合物の還元メチル化反応 —2環と3環モデル化合物よりの生成物の分析と反応機構—
	"	福島伸利	還元メチル化による石炭の可溶化 —炭種と可溶化性との関係について—
	"	福田寛	アゾキシベンゼン類とルイス酸との反応
金属 工学 (1名)	"	山本至臣	還元アルキル化による石炭の可溶化機構の研究 —ベンゼン可溶分の繰り返し還元メチル化—
	"	古河晃	金属酸化物の還元型浸出反応に関する研究
機械 工学 (4名)	"	新谷隆志	半波整流駆動力による衝突振動
	"	千葉吾郎	平板近くにおける円柱の熱伝達について
	"	向山晴夫	低温域における粉体の伝熱特性に関する研究
	"	山田豊	端面が局部加熱を受けるクラッド短円柱の非定常熱応力
生産機 械工学 (3名)	"	高田修市	超塑性合金の鍛造加工性に及ぼす超音波振動付加の影響
	"	十丸泰男	レーザー干渉計による作動油の特性の観測について
	"	吉野俊隆	レーザー測定技術からみた研削加工変形の研究
化学 工学 (5名)	"	河岸義史	フェライト法による難溶性沈殿の生成とその表面特性
	"	黒田亮二	ニッケル鉱石の湿式処理 —浸出液からの有効成分の分離—
	"	高宮正宏	米粒の内部水分移動と乾燥割れ
	"	中村明夫	偏心二重管環状部における輸送現象
	"	三宅良衛	浸漬物体による懸濁液界面沈降速度促進機構

採用	58. 4. 1	森崎静子		臨事用務員(教育学部炊婦)	富山大学長
	"	青山万里子		事務補佐員(工学部)	"
	"	石丸茂雄		教務補佐員(教養部)	"
臨時的任用	"	太田幸子		教諭(教育学部附属養護学校)	"
昇任	"	村井文夫	助手(人文学部)	講師(人文学部)	"
	"	荻原洋	"(東北大学文学部)	"(教育学部)	"
	"	飯田剛史	講師(経済学部)	助教授(経済学部)	文部大臣
	"	萩野聡	"(")	"(")	"
	"	新里泰孝	助手(")	講師(")	富山大学長
	"	南立作	"(工学部)	"(工学部)	"
	"	溝口常俊	"(名古屋大学文学部)	助教授(教養部)	文部大臣
	"	西野秀夫	教諭(教育学部附属中学校)	教頭(教育学部附属中学校)	"
	"	江田晴夫	筑波大学総務部総務課長	高岡短期大学創設準備室総主幹	"
	"	小林武	庶務部庶務課課長補佐	高岡短期大学創設準備室総務主幹	"
	"	武田知己郎	文部事務官(施設課)	施設課企画係企画主任	富山大学長
	転任	"	塚田泰彦	教諭(筑波大学附属駒場中学校)	講師(教育学部)
"		林静生	"(教育学部附属養護学校)	教諭(東京学芸大学教育学部附属養護学校)	東京学芸大学長
"		酒井利満	文部事務官(富山工業高等専門学校庶務課)	文部事務官(庶務部人事課)	富山大学長
"		太田則春	"(長岡技術科学大学総務部会計課)	"(経理部経理課)	"
"		堂口肇	法務事務官(中部公安調査局調査第二課)	"(教育学部)	"
"		中村善志	文部技官(静岡大学理学部)	文部技官(工学部)	"
"		黒田芳雄	経営短期大学部学務係長	厚生課寮務係長	"
"		三井進	厚生課寮務係長	経営短期大学部学務係長	富山大学経営短期大学部学長
"		佐野博	文部技官(工学部)	運輸技官(近畿海運局船舶部検査課)	近畿海運局長
配置換	"	小川洋通	助教授(教育学部)	助教授(人文学部)	文部大臣
	"	鎌田元一	"(人文学部)	"(京都大学文学部)	"
	"	樋口哲	教授(教育学部)	教授(信州大学教育学部)	"
	"	奥原守	助教授(教養部)	助教授(教育学部)	"
	"	有澤俊太郎	"(教育学部)	"(上越教育大学学校教育学部)	"
	"	出井文雄	"(経済学部)	"(神戸大学経営学部)	"
	"	間庭充幸	教授(教養部)	教授(静岡大学人文学部)	"
	"	斉藤好民	"(理学部)	"(東北大学工学部)	"
	"	川上芳夫	宮崎医科大学事務局長	事務局長	"
	"	永野茂信	庶務部人事課長	埼玉大学庶務部人事課長	"
	"	増井重吉	一関工業高等専門学校会計課長	庶務部人事課長	"
	"	中山忠夫	経理部経理課長	京都大学経理部管財課長	"

配 置 換	58. 4. 1	渋谷 正 則	熊本大学施設部企画課長	経理部経理課長	文部大臣
	"	泉 三 郎	工学部庶務係長	人文学部・理学部庶務係長	富山大学長
	"	島 田 政 信	人文学部・理学部庶務係長	教育学部庶務係長	"
	"	浦 田 隆 志	教育学部庶務係長	工 学 部 "	"
	"	滋 野 康 雄	附属図書館閲覧係長	附属図書館受入係長	"
	"	秋 元 国 男	" 受入係長	" 整理係長	"
	"	塩 谷 孝 雄	" 整理係長	" 閲覧係長	"
	"	前 馬 柴 津	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	五十嵐 清 平	文部技官(人文学部・理学部自動車運転手)	文部技官(経理部経理課自動車運転手)	"
	"	友 坂 義 一	文部事務官(教育学部)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	植 吉 和 政	文部技官(教育学部自動車運転手)	文部技官(経理部経理課自動車運転手)	"
	"	金 田 稔	" (経済学部自動車運転手)	" (")	"
	"	高 田 正 道	" (教養部自動車運転手)	" (")	"
	"	高 畠 幸 子	文部事務官(教育学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	下 田 誠 一	" (工学部)	" (")	"
	"	塚 原 美 幸	" (附属図書館)	" (")	"
	"	中三川 敏 之	" (人文学部・理学部)	" (教育学部)	"
	"	平 野 美 智 子	" (経済学部)	" (")	"
	"	柴 田 利 治	" (")	" (")	"
	"	堀 和 子	" (教養部)	" (")	"
	"	涌 井 三 枝 子	" (")	" (")	"
	"	清 水 麗 子	" (庶務部庶務課)	" (経済学部)	"
	"	中 田 節 子	" (経理部経理課)	" (")	"
	"	安 部 保 子	" (人文学部・理学部)	" (")	"
	"	小 林 司	" (教育学部)	" (")	"
	"	高 尾 貢	" (")	" (工学部)	"
	"	二 宮 英 治	文部技官(工学部化学技工)	文部技官(工学部鑄造工)	"
	"	武 久 美 子	文部事務官(教育学部)	文部事務官(教養部)	"
	"	長 崎 宏 美	" (経済学部)	" (")	"
	"	角 井 繁 子	" (附属図書館工学部分館)	" (附属図書館)	"
"	館 喜 美 子	文部技官(工学部)	" (")	"	
"	佐 野 久 子	文部事務官(附属図書館)	" (附属図書館工学部分館)	"	
"	麻 生 三 郎	助教授(短期高等教育機関(高岡)創設準備室)	助教授(高岡短期大学創設準備室)	文部大臣	
併 任	58. 3. 31	大 澤 欽 治	教授(教育学部)	教育学部長・評議員(58.3.31~60.3.30)	"
	58. 4. 1	柳 田 友 道	富山大学長	高岡短期大学創設準備室長に併任する 短期高等教育機関(高岡)創設準備室長の併任は終了した	"
	"	本 田 弘	教授(人文学部)	文理学部長の併任は終了した	"

併 任	58. 4. 2	中 川 正 之	教授(理学部)	理学部長・評議員(58.4.2~60.4.1)	文部大臣
	"	"	" (")	評議員の併任を解除する	"
	"	後 藤 克己	" (")	評議員(58.4.2~58.5.1)	"
	"	位 崎 敏 男	" (工学部)	工学部長・評議員(58.4.2~60.4.1)	"
	"	"	" (")	評議員の併任を解除する	"
	"	高 辻 雄 三	" (")	評議員(58.4.2~58.5.31)	"
	"	中 川 正 之	" (理学部)	トリウム科学センター長(58.4.2~60.4.1)	"
職務命令	58. 4. 1	友 坂 義 一	文部事務官(経理部経理課)	経理部経理課出納係出納主任を命ずる	富山大学長
	"	武 田 知己郎	" (施設課)	施設課企画係企画主任を免ずる	"
	"	植 吉 和 政	文部技官(経理部経理課自動車運転手)	経理部経理課副車庫長を命ずる 兼 部副車庫 長 免る	"
	"	石 田 文 治	文部事務官(工学部警務員)	工学部警務員長を命ずる	"
休 職	"	塩 谷 孝 雄	附属図書館整理係長	復職した	"
辞 職	58. 3. 31	木 下 良	教授(人文学部)	辞職を承認する	文部大臣
	"	平 井 通 郎	助教授(教養部)	"	"
	"	亀 田 速 穂	" (経営短期学部経営学科)	"	"
	"	加 藤 清	教諭(教育学部附属小学校)	"	富山大学長
	"	堀 田 恵美子	" (")	"	"
	"	吉 田 耕 造	" (教育学部附属中学校)	"	"
	"	三 国 信 孝	" (")	"	"
	"	深 野 千鶴子	" (")	"	"
	"	山 下 清 士	" (教育学部附属養護学校)	"	"
	"	田 子 直 幾	文部事務官(工学部)	"	"
	58. 4. 1	中 山 宇之一	教頭(教育学部附属中学校)	辞職を承認する	文部大臣
	"	長谷川 登	事務局長	"	"
	"	柴 田 富美枝	経理部経理課出納係出納主任	"	富山大学長
	"	日南田 善 郎	文部事務官(学生課)	"	"
	"	中 村 恵 二	" (教育学部)	"	"
	"	中 島 澄 子	" (経済学部)	"	"
	"	青 木 敬 治	" (経理部主計課警務員)	"	"
	"	家 納 トミ子	用務員(教育学部作業員)	"	"
	"	山 本 幸 作	文部技官(工学部 casting)	"	"
	"	手 塚 作 治	文部事務官(工学部警務員)	"	"
退 職	58. 3. 31	廣 澤 輝 子	教諭(教育学部附属養護学校)	昭和58年3月30日限り任期満了により退職した	"
	"	福 村 文 吾	臨時用務員(経理部主計課警務員)	昭和58年3月30日限り退職した	"
	58. 4. 1	五百崎 千 鳥	教諭(教育学部附属養護学校)	昭和58年3月31日限り任期満了により退職した	"
	"	砺 波 容 子	技術補佐員(経理部主計課)	昭和58年3月31日限り退職した	"

退職	58. 4. 1	川原郁子	事務補佐員(工学部)	昭和58年3月31日限り退職した	富山大学長
	"	金森敦子	教務補佐員(教養部)	"	"
	"	松島珠喜	事務補佐員(附属図書館)	"	"
	58. 4. 2	小倉玄吾	教授(教育学部)	昭和58年4月1日限り停年により退職した	文部大臣
	"	石瀬秀治	"(経済学部)	"	"
	"	竹内豊三郎	"(理学部)	"	"
	"	二神弘	"(教養部)	"	"

学 内 諸 報

~~~~~

### 工学部の地鎮祭が行われる

工学部の地鎮祭が3月30日午前11時から五福の建設予定地で学長、工学部長はじめ各部局長等及び工事関係者等の約30人が出席して行われた。

地鎮祭は、富山日枝神社の平尾宮司の祝詞奏上に続き、学長がカマ入れ、大井工学部長がクワ入れを行い関係者が玉ぐしをささげて工事の無事を祈った。

建設工事は、3期に分け、59年10月からは機械工学科など3学科が新校舎で授業を開始、残る4学科も60年10月に移転を完了する予定となっている。



### 学長メッセージ

本日めでたく工学部新営工事の鍬入れ式を行い、本学としての長年の宿願成就のスタートを切ることができたことは誠に喜ばしいことであります。ここに至るまでには文部省の御指導はもとより、富山県及び高岡市当局をはじめ、地元の方々の強力なる御支援なくしては到底考えられないことでありまして、ここにこれらの方々に対しまして深甚なる感謝の気持を捧げたいと思います。

私共本学教職員は、これを機会に全学を挙げて教育研究面でなお一層努力して内容の充実をはかり、少しでもその水準を高揚するよう努めると共に、地元に対し

昭和58年3月30日

では種々の面で開かれた大学として、本学のもっている総合大学としての能力を、県民の皆様にごできるだけ利用していただきたいと考えております。このことが地方における国立大学の果たすべき真の役割であると信じております。

私共富山大学としては、本日をもって本学の新しい時代への幕明けの日と考え、これまで本学を外から支えてきて下さった多くの方々の御期待に応えていく覚悟でございますので、今後共引き続き従来にも増して叱咤御鞭撻をお願いしたいと思います。

## 工学部校舎新営工事用車両の交通について

工学部校舎の新営工事に伴う資材運搬用車両の交通について検討を進めた結果、差し当たって別図に示したように下記の3コースをとることとなったのでお知らせします。

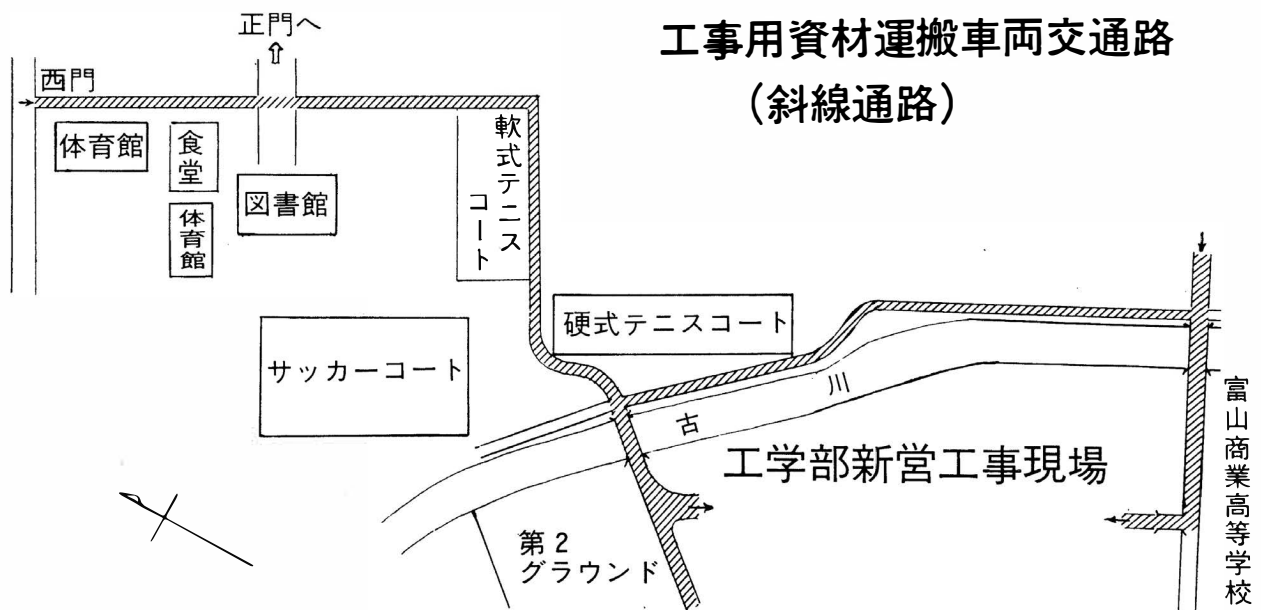
工事期間中、教職員学生の皆様方には何かと御迷惑をかけることになるとと思いますが、御容赦願います。そして、工事担当者にはくれぐれも運行に注意するよう要請しますが、学内のドライバー及び歩行者の方々も事故を起さないよう十分御留意いただきたいと思ひます。

なお、工事用車両の運行につきましてお気づきの点は本部施設課工営係へお申し出ください。

記

- 1, 構内西門からテニスコートを経て工事現場へ至る通路。なお、西門から図書館までの間には必要に応じてガードマンを配置し、また、11時30分から13時30分までの間は工事用車両の運行を停止させます。
- 2, 古川東岸沿いの通路。
- 3, 富山商業高等学校前に架設する橋梁（幅6m）から進入する通路。なお、この通路の利用については、富山県教育委員会の特別の御理解によるものであることを申し添えます。

(施設課)



### 工所用資材運搬車両交通路 (斜線通路)

## 人文学部長の改選

本田 弘人文学部長の任期が昭和58年5月1日に満了することに伴い、人文学部教授会は、3月11日に次期人文学部長候補者の選挙を実施した。その結果、楠瀬 勝教授が選出された。任期は、昭和58年5月2日から2年間。

楠瀬教授は、昭和26年3月京都大学文学部史学科を卒業、引き続き同大学大学院（文学）特別研究生とし

て29年3月まで研さんに努めた。同年6月京都大学人文科学研究所助手、40年1月富山大学文理学部助教授、49年4月同教授、52年5月人文学部教授となり、今日に至っている。その間、51年4月から3年間及び56年5月以降評議員として本学の運営に当たっている。

専門は、日本史学（中世史）、高知県出身。

海外渡航者

| 渡航の種類  | 所属   | 官職  | 氏名    | 渡航先国                                          | 目的                      | 期間                       |
|--------|------|-----|-------|-----------------------------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 外国出張   | 教育学部 | 教授  | 藤森 勉  | フィリピン, インドネシア, オーストラリア, ニュージーランド              | 海外における工業用原料産地の地域構造研究のため | 58. 3. 15<br>} 58. 5. 14 |
|        | 経済学部 | 助教授 | 泉田 栄一 | ドイツ連邦共和国, オーストリア, スイス, イタリア, フランス, スペイン, 連合王国 | ヨーロッパの企業結合の法規制に関する研究のため | 58. 3. 29<br>} 59. 1. 28 |
|        | 理学部  | 教授  | 竹内豊三郎 | アメリカ合衆国                                       | 核融合炉用燃料の取り扱い            | 58. 3. 20<br>} 58. 3. 27 |
| 海外研修旅行 | 経済学部 | 講師  | 飯田 剛史 | 大韓民国                                          | 韓国民俗宗教の研究のため            | 58. 3. 7<br>} 58. 3. 19  |

退職者を囲む懇談会開催

昭和57年度に本学を停年又は勸奨により退職された方々を囲む懇談会が、3月12日(土)12時から事務局中会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、事務局玄関前で出席者全員による記念撮影が行われ、引き続き開催された懇談会では、記念品贈呈、学長あいさつ、退職者代表謝辞などがあり和やかな雰囲気の中に懇談がなされ、学長並びに各部局長等から永年の労をねぎらわれました。

なお、退職者は、次のとおりです。

- 文部事務官 長谷川 登
- 経 理 部 " 柴 田 富美枝
- " " 青 木 敬 治
- 学 生 部 " 日南田 善 郎
- 教育学部 文部 教官 小 倉 玄 吾
- " " 中 山 宇之一
- " 文部事務官 中 村 恵 二
- " 用 務 員 家 納 トミ子
- 経済学部 文部 教官 石 瀬 秀 治

- 経済学部 文部事務官 中 島 澄 子
  - 理学部 文部 教官 竹 内 豊三郎
  - 工学部 文部事務官 手 塚 作 治
  - " 文部 技官 山 本 幸 作
  - 教養部 文部 教官 二 神 弘
- 以上14名



紺綬褒章の伝達

昭和56年、本学に図書ケミカル・アブストラクト、1セットを寄附した日本ドーバー株式会社に対し、こ

のほど紺綬褒章が賜与され、3月8日(火)学長室において若林図書館長、長谷川事務局長等が列席のもとに柳



田友道学長から同社に褒状が伝達されました。

同書は、毎年世界の各国で誕生している化学研究成果を集大成したもので、研究者には極めて貴重な文献であり、本学に寄附された図書はこのうち、第74-89巻（1971-1978）の319冊（時価460万円相当）で、現在、本学附属図書館において資料として保管され、利用に供されている。



## 学内レクリエーション

### ◇囲碁大会

本学レクリエーション委員会娯楽部会囲碁班主催による昭和57年度学内囲碁大会が、去る3月19日(土)午後1時から本学職員会館において実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

- Aクラス 優勝 佐伯 信男（施設課）  
次勝 土肥 隆三（学生部）  
三位 松嶋 道夫（経営短大）
- Bクラス 優勝 竹川 慎吾（経済学部）  
次勝 篠原 巖（経営短大）  
三位 新里 泰孝（経済学部）
- Cクラス 優勝 尾山 吉昭（学生部）  
次勝 前田 邦樹（庶務部）

三位 越森 哲（施設課）

### ◇将棋大会

本学レクリエーション委員会娯楽部会将棋班主催による昭和57年度学内将棋大会が、去る3月26日(土)午後1時から本学職員会館において実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

- A 級 優勝 高木 行則（学生部）  
次勝 尾山 吉昭（ 〃 ）  
三位 前川 清徳（工学部）
- B 級 優勝 佐伯 信男（施設課）  
次勝 柳田 邦雄（教養部）  
三位 米原 俊孝（経済学部）

## 保健管理センターだより

### 〈精神療法～A子の場合～〉

保健管理センター教授 中 村 剛

A子の診断はすぐについた。その深層心理も手にとるようにわかる。「症状自体は軽いが、少してこずるかもしれない。しかし、まかり間違っても自殺をするとか、破局に陥ることだけはない。」—この後半の判断が私を安易な方向へと走らせてしまった。私は指示的な療法を用いることにしたのである。相談をうけた相手に向ってだれもが自分の考えでサジェスションを与えている。「指示的」というのはそんな類の手法である。ただ、精神科医の場合はそのサジェスションの目標が来談者の意識下の世界に集中するだけの話である。

A子はきわめてスムーズに軽快するが、何かの出来

事をきっかけにまた悪化する、といった状態をくり返した。いとも簡単に悪化するのには“抵抗”のためである。A子の“抵抗”とその内容はこれまた手にとるようにわかる。私は作戦を変更しようと思った。ところが、時期が悪い。A子の卒業が間近かに迫っていたのである。

卒業後A子は学校に勤めた。

手紙①「先生、お手紙ありがとうございました。」

けれども先生、このままではどうしてもやっつけられません。先生に迷惑をかけてはいけなそう思いながら、私の話を読むだけでも読んで下さい。明日どうしても

学校に行きたくないと思うのだけれど、どう考えてもあさってからが不利になるし、40人の反感を買うだろうし、その親の反感も買うし、他の先生方もそうだし、たぶん学校へ行くでしょう。でも毎日みじめなことのくり返しでさっぱり良くなりならず、学校へ行けば行くほど恥をかきます。—中略—。気持ちがすごく動揺しているから、見るもの聞くものがどこか現実離れした感じでもともに見たり聞いたりできていないので、また、頭も働かないので、ばかのようになっています。それでどんな単純なことでも算数の簡単なたし算もなかなかわからないとか、まちがえたりとか、丸つけを何度もまちがえたりします。—以下略—。」

その後、何度かの手紙、電話のやりとりや面接をくり返したあと、A子は突然学校を辞めた。その直後の手紙を紹介する。

手紙②「中村先生、私はようやく気がつきました。どういうりくつで症状が出るのかということは、先生に口をすっぱくして説明して頂いていたとおり、私には、実はよくわかっていたのです。

それがどうして治らなかつたのかというと、勇気がいまひとつなくて、治そうとしなかつただけなのです。

どうして本気で治そうとしなかつたのか。それは『自分のありのままの姿をさらすことになりはしないか、幼児のようになりはしないか。私のこの症状は10年来のものだから、人より10年遅れている。その遅れを演技によってかろうじてカバーしているのだ。だから幼児に落ちぶれるより、今の方がましだ。』という考えが、

心の底にあったようです。でも、これは誤りですね。これを維持している限り、私は一生治らないでしょう。

私の生きるうえで、この問題の重大さ、深刻さの認識が、これまで足りませんでした。たとえ幼児のようになってしまったとしてもいい（まさか本当に幼児のようにはならないでしょう）。—から出直そうと思います。亀のようにコツコツと。

ただ、社会的責任のない学生時代に戻ってやり直すことができれば最高ですが、そればかりはできません。社会に出て責任を持ちながらだと大変かもしれませんが、前に進むしかありません。—以下略—。」  
（筆者註：傍点は手紙のママ、前記の“抵抗”の内容は「幼児に落ちぶれるより、今の方がましだ」に相当する）。

手紙②で明らかなようにA子は90%治ったとみてよい。私の治療は成功したようにもみえる。しかしA子は社会生活の第1歩でつまずいたのであって、その原因は私が第一に選択した治療法の誤りにあると思う。もっとも臨床の場では対象群、コントロール群を比較検討するといった悠長なことはやられていないから治療の成功・失敗は治療者の（主観的な）評価次第ということにもなりかねない。そればかりではない。治療の失敗は来談者の災いになるばかりで、治療者側には直接の不利益をもたらさないのである。

したがって、治療者には正確な臨床診断能力とともに客観的な自己評定をも要請されることになるが、むしろこのへんが精神療法の難しいところなのかもしれない。

## 職 員 消 息

### 《改 姓》

#### 人文学部

助 教 授 濱田 英子 （旧姓 松島）

#### 工 学 部

事務補佐員 柳瀬利英子 （旧姓 野村）

#### 庶 務 部

人事課長 増井 重信

### 《新任者》

事務局長 川上 芳夫

文部事務官 長田 昭夫

(庶務課文書係)

附属小学校教諭 小西 信英  
(図 工)文部事務官 酒井 利満  
(人事課給与係)" 常楽 道子  
(音 楽)**経 理 部**

経 理 課 長 渋谷 正則

附属中学校教諭 沢井 隆  
(国 語)" 柝野 稔子  
(音 楽)文部事務官 太田 則春  
(経理課給与係)" 小山 裕子  
(英 語)技術補佐員 松原 勇  
(計算機センター)" 今井 創  
(体 育)**人文学部**助 教 授 服部 良久  
(西洋史学)

附属養護学校教諭 八尾 道子

" 加賀谷賢二

講 師 榎木 謙周  
(日本史学)

" 太田 幸子

**教育学部**教 授 神谷 重徳  
(障害児病理)

臨時用務員 森崎 静子

講 師 塚田 泰彦  
(国語科教育)**経済学部**助 教 授 古田 俊吉  
(財 政 学)講 師 荻原 洋  
(英 語 学)助 手 武脇 誠  
(管理会計)文部事務官 堂口 肇  
(学 務 係)

理学部

教授 松浦 郁也  
(物理化学)

施設課

文部技官 佐伯 信男

工学部

文部事務官 熊崎 卓巳  
(会計係)

人文学部

助教授 矢沢 英一

文部事務官 羽広 孝司

文部技官 中村 善志  
(輸送現象)

教育学部

助教授 遠藤 幸一

〃 高村 浩之  
(工場係)

〃 有澤みち子  
(工業計測)

助教授 小西 照泰

事務補佐員 青山万里子  
(制御工学)

理学部

助教授 日下部 実

教養部

助教授 溝口 常俊  
(地理学)

教養部

文部事務官 新井 浩

《住所変更》

庶務部

文部事務官 田中 輝和

主 要 行 事

本 部

3月1日 第3回健康増進合宿セミナー

3日 第2回学長選考管理委員会

- 第1回学長候補適任者選定委員会  
 4～5日 昭和58年度富山大学入学者選抜試験  
 7日 発明委員会  
 8日 紺綬褒状の伝達（日本ドーバー㈱）  
 第21回学寮補導委員会  
 10日 第6回公開講座委員会  
 第6回補導協議会  
 11日 第25回北陸五大学施設担当者協議会  
 12日 第12回評議会  
 第8回大学院委員会  
 退職者との懇談会  
 13日 合格者発表  
 18日 北陸地区国立学校事務電算化専門委員会  
 （会計部会）  
 教務委員会及び補導協議会の合同委員会  
 第4回教務委員会  
 19日 学内囲碁大会  
 22日 北陸地区国立学校事務電算化専門委員会  
 （給与計算事務部会）  
 第7回入学者選抜方法研究委員会専門委員会  
 第22回学寮補導委員会  
 23日 第8回事務協議会  
 24日 昭和57年度専攻科修了証書、大学院修士学  
 位記授与式  
 25日 卒業証書授与式  
 26日 学内将棋大会  
 学内ボーリング大会  
 教務委員会及び補導協議会の合同委員会  
 28～29日 昭和57年度厚生補導担当教官研究会  
 （於 黒部荘）  
 29日 第2回学長候補適任者選定委員会  
 30日 工学部地鎮祭

### 文 理 学 部

- 3月25日 卒業証書授与式  
 及び卒業祝賀会（於、県民会館  
 朝日生命ビル）

### 人 文 学 部

- 3月4日 人事教授会  
 授業時間割担当者会議  
 8日 予算委員会  
 学部将来計画委員会  
 11日 教授会  
 次期学部長候補者選挙  
 人事教授会  
 17日 学部教務委員会  
 教授会検討委員会  
 23日 教授会  
 学部紀要委員会  
 教官懇談会  
 24日 文学専攻科修了証書授与式  
 （於 事務局大会議室及び学部会議室）  
 25日 学部卒業証書授与式  
 文学専攻科修了、学部卒業祝賀会  
 （於、県民会館）

### 教 育 学 部

- 3月2日 教授会  
 人事教授会  
 7日 予算委員会  
 10日 カリキュラム検討委員会  
 11日 学部教務委員会  
 学部教務委員会・補導委員会合同会議  
 教授会  
 人事教授会  
 12～18日 スキー実習（於 志賀高原発哺スキー場）  
 14日 附属中学校卒業式  
 15日 附属養護学校卒業式  
 附属幼稚園卒園式  
 16日 附属小学校卒業式  
 17日 附属幼稚園第3学期修業式  
 18日 入試方法研究委員会  
 附属中学校第3学期修業式  
 19日 附属養護学校第3学期修業式  
 23日 附属小学校第3学期修業式

### 経 済 学 部

- 3月9日 論集委員会

学部教務委員会  
教授会

3月2日 小委員会（地図情報室設置）  
8日 日本ドーバーKK褒状伝達式及び懇談会  
図書館報編集委員会  
19日 図書館ボーリング大会  
22～28日 開架図書蔵書点検  
24日 係長事務打合せ会

### 理 学 部

3月11日 教授会  
理学研究科委員会  
人事教授会  
14日 学部教務委員会（持回り）  
24日 理学研究科修士学位記授与式  
（於 事務局会議室）  
25日 学部卒業証書授与式  
理学研究科修了，学部卒業祝賀会  
（於 朝日生命ビル）

### トリチウム科学センター

3月4日 持ち回り放射性同位元素委員会  
7日 発明委員会  
23日 昭和57年度第2回低温液化室運営委員会  
28日 放射性同位元素委員会

### 工 学 部

3月1日 昭和58年度入学者選抜学力検査実施に伴う  
説明会  
2日 教授会  
工学研究科委員会  
4日 昭和58年度入学者選抜学力検査  
7日 情報工学科構想についての打合せ会  
11日 教授会  
教官懇談会  
工学研究科委員会  
13日 富山大学合格者発表

### 保健管理センター

3月4日 昭和58年度富山大学入学者選抜健康診断  
9日 特別健康診断（X線間接撮影）  
31日 臨時健康診断（柔道部）

### 経営短期大学部

3月3日 第7回入学者選抜学力試験委員会  
5日 第20回教授会（持ち回り）  
5～15日 一般入学願書受付  
9日 富大経済論集委員会  
10日 第21回教授会  
11日 第22回教授会  
12日 学生と教職員懇談会  
16日 第1回編入学選考委員会  
17日 第8回入学者選抜学力試験委員会  
編入学選抜試験  
第2回編入学選考委員会  
20日 昭和58年度富山大学経営短期大学部入学者  
選抜学力検査  
23日 服務関係事務調査  
24日 第23回教授会  
25日 昭和57年度富山大学経営短期大学部卒業証  
書授与式  
（於 富山ステーションホテル2階会議室）  
28日 昭和57年度富山大学経営短期大学部合格者発表

### 教 養 部

3月2日 教務委員会  
教授会  
人事教授会  
17日 補導委員会  
教授会  
23日 予算委員会

### 附属図書館

資 料

昭和57年度卒業（修了）者数

・学 部

58. 3. 25付

・大学院

58. 3. 24付

| 学 部  | 学科(課程)        | 卒 業 者 数 |
|------|---------------|---------|
| 文理学部 | 文 学 科         | 4       |
|      | 理 学 科         | 2       |
|      | 計             | 6       |
| 人文学部 | 人 文 学 科       | 73      |
|      | 語 学 文 学 科     | 87      |
|      | 計             | 160     |
| 教育学部 | 小学校教員養成課程     | 129     |
|      | 中学校教員養成課程     | 41      |
|      | 養護学校教員養成課程    | 23      |
|      | 幼稚園教員養成課程     | 25      |
|      | 計             | 218     |
| 経済学部 | 経 済 学 科       | 99      |
|      | 経 営 学 科       | 111     |
|      | 経 営 法 学 科     | 46      |
|      | 計             | 256     |
| 理学部  | 数 学 科         | 40      |
|      | 物 理 学 科       | 35      |
|      | 化 学 科         | 35      |
|      | 生 物 学 科       | 22      |
|      | 地 球 科 学 科     | 25      |
|      | 計             | 157     |
| 工学部  | 電 気 工 学 科     | 58      |
|      | 工 業 化 学 科     | 42      |
|      | 金 属 工 学 科     | 30      |
|      | 機 械 工 学 科     | 47      |
|      | 生 産 機 械 工 学 科 | 41      |
|      | 化 学 工 学 科     | 34      |
|      | 電 子 工 学 科     | 42      |
|      | 計             | 294     |
| 合 計  | 1,091         |         |

| 研 究 科 | 専 攻             | 修 了 者 数 |
|-------|-----------------|---------|
| 理学研究科 | 数 学 専 攻         | 3       |
|       | 物 理 学 専 攻       | 11      |
|       | 化 学 専 攻         | 2       |
|       | 生 物 学 専 攻       | 3       |
|       | 地 球 科 学 専 攻     | 6       |
|       | 計               | 25      |
| 工学研究科 | 電 気 工 学 専 攻     | 5       |
|       | 工 業 化 学 専 攻     | 4       |
|       | 金 属 工 学 専 攻     | 1       |
|       | 機 械 工 学 専 攻     | 4       |
|       | 生 産 機 械 工 学 専 攻 | 3       |
|       | 化 学 工 学 専 攻     | 5       |
|       | 電 子 工 学 専 攻     | 6       |
| 計     | 28              |         |
| 合 計   | 53              |         |

・専攻科

58. 3. 24付

| 専 攻 科       | 修 了 者 数 |
|-------------|---------|
| 文 学 専 攻 科   | 7       |
| 教 育 専 攻 科   | 3       |
| 経 済 学 専 攻 科 | 1       |
| 合 計         | 11      |

・経営短期大学部

58. 3. 24付

| 専 攻         | 卒 業 者 数 |
|-------------|---------|
| 経 営 管 理 専 攻 | 50      |
| 経 営 法 律 専 攻 | 33      |
| 合 計         | 83      |

## 昭和58年度授業日程表

| 学部等  | 学 年   | 前 学 期                 |           | 夏季休業      | 後 学 期                       |              | 冬季休業             | 備 考                                                                                      |
|------|-------|-----------------------|-----------|-----------|-----------------------------|--------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       | 授業(補講を含む)             | 期末試験      |           | 授業(補講を含む)                   | 期末試験         |                  |                                                                                          |
| 教養部  | 1.2   | 4/12~7/14<br>9/1~9/14 | 9/16~9/29 | 7/15~8/31 | 10/15~12/23<br>59.1/11~2/18 | 59.2/20~2/28 | 59<br>12/24~1/10 |                                                                                          |
| 人文学部 | 2.3.4 | 4/12~7/11<br>9/1~9/14 | —         | 7/12~8/31 | 10/15~12/23<br>59.1/10~2/13 | —            | 59<br>12/24~1/9  | 集中講義<br>7/14~7/23, 9/12~9/17<br>11/14~11/19, 12/19~12/24<br>2/13~2/18                    |
| 教育学部 | 2.3.4 | 4/7~7/16              | 7/18~7/23 | 7/24~8/31 | 10/20~12/24<br>59.1/10~2/13 | 59.2/14~2/20 | 59<br>12/25~1/9  | 教育実習 9/1~10/19                                                                           |
| 経済学部 | 2.3.4 | 4/8~7/13<br>9/1~9/10  | 9/12~9/21 | 7/14~8/31 | 10/17~12/24<br>59.1/9~2/14  | 59.2/15~2/23 | 59<br>12/26~1/7  | オリエンテーション10/14                                                                           |
| 理学部  | 2.3.4 | 4/15~7/14<br>9/5~9/17 | —         | 7/15~9/4  | 10/17~12/24<br>59.1/17~2/20 | —            | 59<br>12/25~1/16 | 物理学基礎実験 7/15~7/21<br>11/14~11/19, 12/19~12/24<br>生 産 実 験 4/8~4/14<br>地 球 学 験 10/10~10/15 |
| 工学部  | 2.3.4 | 4/14~7/13<br>9/8~9/28 | —         | 7/14~9/7  | 10/17~12/24<br>59.1/9~2/18  | —            | 59<br>12/25~1/8  |                                                                                          |

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画  
富山市曙町9-1  
電話(33)3356代